

キリン・アーカイブとシミズ・アーカイブズの比較

図書館基礎特論レポート

坂上 琴海（文学部史学科）

はじめに

アーカイブズは作成の過程である一定の基準を設けられ、その基準にそってアーカイブズとなるかどうか選別される。それゆえ、アーカイブズには組織した個人や企業の特徴が色濃く反映される。特に組織アーカイブズは業務利用、文化の伝達・継承、アカウントビリティ支援の三つがどのような割合で重要視されるかによってアーカイブズの性格が様々に変化する。

今回は数ある組織アーカイブズの中でもキリングroupと清水建設株式会社のものを比較し違いを明らかにすることで、特にその活用法の違いについて考察していく。

二つのアーカイブズの特徴とその比較

キリン・アーカイブとシミズ・アーカイブズの大きな違いは、情報を外に向けて発信するか、内で活かしていくか、という点にあると考えられる。その違いは各社のホームページや帝国データバンク史料だより『Muse』30号（2017.9）、31号（2018.2）掲載のインタビューからも読み取ることができる。最初に、各社ホームページの歴史関係ページについて述べていく。

1 各社ホームページの比較

キリングroupのページではその歴史が年表に加えて13の項目ごとに細かく解説されている。ページ内にはアーカイブズに内包されている過去に発売された製品の画像や、当時の工場の写真などが多く使われており非常に見やすいものとなっていた。加えて各製品の歴史や、キリン株式会社の前身となったジャパン・ブルワリーの重役会議事録も公開されており、持っているアーカイブズを最大限に利用し会社の歴史を記述している。会社に直接関連するもの以外に一般的な酒・飲料の歴史、キリンに関わりのある歴史人物伝のページもあり全体的に消費者向けのサイトとなっている。

清水建設株式会社のページは、一見キリングroupに比べて簡素に見えるが、会社の概要・歴史を解説するための動画が公開されており分かりやすくまとめられている。また、事業内容、定款、機構図も公開されているが、より専門的な内容になっておりキリングgroupが消費者向けのサイトになっていたのに対し、どちらかと言えば企業向けのサイトとして作成されたのではないかと感じる。

このように、各社のホームページではキリン・アーカイブは消費者向けに活用され、シミズ・アーカイブズは同業他社や取引先となるであろう企業向けに活用されていることが分かる。

次は帝国データバンク史料館だより『Muse』掲載のインタビューから両社アーカイブズの違いを考察する。

2 帝国データバンク史料館だより『Muse』掲載インタビューの比較

まずキリン・アーカイブズに関する『Muse』掲載の当該記事から見ていく。そこにはキリン・アーカイブズの活動が経営層からキリンブランドの価値を向上させ、消費者または企

業に向けてアピールしていくことにアーカイブズが役に立つものであるとみなされていることが述べられている。つまりアーカイブズの活用法の主な方針は消費者や企業、キリンググループという企業の外へ向けて情報を発信することであり、先述したホームページの特徴はまさにこの方針にのっとったものであったということだ。さらに文中にあるようにキリンのアーカイブ室では問い合わせ対応や史料の貸し出しなどのレファレンスサービスも実施しており受動的な活動も行っている。また、アーカイブズを収集するにあたって重要な選別の基準だが、キリン・アーカイブのポリシーでは「収集対象資料」だけでなく「収集対象の事業会社」という項目も定められており、グループ企業が多いキリンならではの基準が設けられていることが確認できる。

次にシミズ・アーカイブズに関する記事の記述を見る。ここでは清水建設株式会社の社史編纂室の歴史について述べられており、どのようにして現在のシミズ・アーカイブズが構築されたのかが詳細に語られている。二百年史編纂時の5分類が見直され現在は「社史資料」、「OB資料」、「年史資料」、「人物資料」、「実績資料」、「図書・古書類」、「写真・アルバム」、「社宝・もの」の8分類に編成されており、使用頻度や適した保存環境などに応じて分散して管理されている。これらの記録資料は社内報への記事掲載や社員教育のための研修会で利用されており、情報を外へ発信するキリンとは対照的に企業内の質を向上させるためにアーカイブズが活用されている。このように、アーカイブズを過去のものとして捉えず現在の仕事に資料を活かすことがシミズ・アーカイブズの活用法の特徴である。また、シミズ・アーカイブズには展示や出版を通じたさらなる公開や、デジタルで作成された資料と物資資料の関連付けと保存管理が課題としてあげられており、内で活かすだけでなく外への情報発信も同時に行っていく新たな可能性を示している。

まとめ

ここまで、キリン・アーカイブとシミズ・アーカイブズの活用法の違いについて考察してきた。キリン・アーカイブは情報を外に向けて発信する方法、シミズ・アーカイブズは情報を内で活かす方法でそれぞれの企業に合った活用をしていることを発見できた。

そして同時に二つの企業のアーカイブズで共通する事項も現れてきた。それはアーカイブズを活用するためには、まず管理するアーキビストたちが資料について十分に知ることが最も重要であるということだ。どのような活用をするにしろ、資料を扱うアーキビストたちがそのコンテンツとコンテキストを理解していなければ有効活用はできない。今回比較した二つのアーカイブズが良質なアーカイブズを構成出来ているのはアーキビストたちの功労あつてのものだろう。

アーカイブズがどのようにその特色を残し、形成されていくかはアーキビストにかかっている。企業、組織に応じたアーカイブズとはどのようなものなのかこれからも考えていきたい。

参考資料

1. 帝国データバンク史料館だより『Muse』Vol.30, 2017.9.
2. 帝国データバンク史料館だより『Muse』Vol.31, 2018.2.
3. キリンビール：企業情報>キリンググループの歴史 <http://www.kirin.co.jp/company/history>
4. キリン歴史ミュージアム <http://www.kirin.co.jp/entertainmant/museum/>
5. 清水建設：企業情報>シミズについて>会社概要
<https://www.shimz.co.jp/company/outline/>